

岸川 饅頭、多久饅頭が好き

— 故郷の名産で好きな食べ物は何ですか。

たくさんありますが、宝塚に行き、一番恋しかったのは、岸川饅頭、多久饅頭ですね。故郷を出たら、なかなか食べる機会がないので、多久にしかないもの、佐賀にしかないものを大切にしたいと思います。

逃げたら逃げただけ嫌いになる

— 苦手な教科はどうすれば克服できますか？

嫌いをなくすコツは好きになり、楽しむことでしょう。私は中学2年生の時、理科と国語がすごく苦手だったので、克服したくて、ひたすら勉強しました。逃げたら逃げるだけ嫌いになってしまうので、自分から好きになる努力をしたほうがいいと思います。苦手な教科でも、やっていくと奥が深くて楽しいと思えますよ。

男性は力強く、たくましく、女性 は可憐に清楚できれいに

— 男役として最初に学んだのは何ですか？

立ち姿です。男役は、より男らしく、娘役は可憐に清楚できれいに。



きつと、女性はどなたもきれいで可愛いという気持ちがありますよね。その気持ちを大きく強く持つことで自分が磨かれていくと思います。男の子はいっそう力強くたくましく、存在感あるように生きてほしいですね。

感動、感無量の初舞台、初主演

— 2001年、あの有名な『ベルサイユのばら』で初舞台、昨年は新人公演『エル・アルコンー鷹』で初主演されました。どんな気持ちでしたか？

大ヒット作での初舞台は、感動の一言でした。同期と一緒に初舞台を踏ませて頂くという最初で最後の体験に恵まれ、感動しました。その後、7年間の新人公演は、勉強するための公演ですが、最後の年の公演で大役を頂き、感無量でした。

反省点はあったものの、120%の力を出し切ろうと言う思いで、開演前の緊張はとれて、すごく気持ちよく演技できました。私の組トップの安蘭けいさんに「伸び伸び楽しく頑張りなさい」と背中を押して頂き、上級生が見守ってくださることで、心強く、本当に舞台で息づくことができました。

舞台照明も押し返すほどの存在感

— 新人公演で主役、今年のバウホール公演『アンナ・カレーニナ』でも主役のアレクセイ・ヴィロンスキー伯爵役を演じ、あのスポットライトを受けるってどんな感じですか。

言葉にできないくらいの感動がありました。ガツとくる熱い照明もセンターに立っている以上、それを押し返すほどの存在感を出さないとい

けないことを学びました。

好き嫌いをなく、規則正しい食生活

— 長身になるコツ、その美しさを保つ秘訣は何でしょうか？

まずは、小さい頃から好き嫌いをなく何でも食べることが大きくなるコツだと思います。そして、舞台化粧で熱いライトを浴びていると肌のトラブルもありますが、やはり色んなものを摂取して規則正しい食生活をする必要があります。

できることを積み重ねスランプ脱出

— スランプに陥った時の対処法はありますか？

自分の精神状態も落ちていくので、逃げるのではなく戦おうと思います。焦って悲観的になる前に、自分ができることを少しずつ積み重ねます。辛くても、もがき苦しんで頑